

たまねぎレポート【355号】



平成29年5月27日

阪南青果株式会社

社 内 報

4月の天候は、北・西日本で高温だったが、全国的に気温の変動が大きかった。北・東日本の太平洋側、西日本、沖縄、奄美で日照時間が多かった。西日本で降水量が多かった。一部の地域では、月後半に干ばつ傾向となった。北・東日本、沖縄・奄美では平年並みだった。5月の天候は、全国的に気温は平年より高い日が多く、最高気温が真夏日になった地域が多かった。他方、山間部での雪解けは例年より遅い地域が多く、寒暖の差がた大きかった。

気象庁が発表した6～8月の3ヶ月予報によると、この期間の平均気温は、全国的に高く、厳しい暑さとなる可能性がある。降水量は、西日本の太平洋側で平年並み亦は多い。月別予報は次の通り。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、期間を通じ平年と同様に曇りや雨の日が多い。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。後半は平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、期間を通じ平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

4月の主要5大都市中央卸売市場の野菜の入荷は、前年比減の市場が多く、平均単価は前年比で高安まちまちであった。市場別に入荷量と価格は、札幌市場の入荷は前年比89%、平均価格はkg¥214前年比108%。東京市場は前年比99%の入荷で、平均価格はkg¥260前年比97%。名古屋市場は前年比97%の入荷で、平均単価はkg¥239前年比99%。大阪本場の入荷は前年比101%で、平均単価はkg¥262前年比102%。福岡市場の入荷は前年比98%平均単価はkg¥186前年比101%となっている。

玉葱の販売量は福岡市場以外は前年比減で、平均単価はいずれの市場も前年比大幅高であった。北海物の切り上がりが予想外に早かったことや、府県産地の新玉の生育遅れが影響した。市場別では、札幌市場の販売量は4,916トン前年比97%、平均単価はkg¥91前年比138%。東京市場は12,151トンの販売で前年比84%、平均単価はkg¥131前年比151%。名古屋市場の販売量は6,154トン前年比97%、平均単価はkg¥102前年比136%。大阪本場の販売量は3,780トン前年比83%、平均単価はkg¥126前年比154%。福岡市場の販売量は3,643トン前年比110%、平均単価はkg¥113前年比135%と

なっている。

日本農業新聞社の集計値に依ると、全国主要7都市の代表荷受7社の、主要野菜14品目の4月の販売量は、89,172トン前年比99%(前月比98%)。平均単価はkg¥165前年比98%(前月比101%)で、サトイモ、トマトを始め前年比安の品目が多かった。入荷が前年比増となった品目は、サトイモが前年比116%、バレイショが112%、トマトが110%など8品目(前月は9品目)。前年比減となった品目は、ナスが前年比83%、ピーマン86%、ハクサイが89%など6品目(前月は4品目)。価格が前年比高であったのは、タマネギ、ハクサイが前年比133%、キュウリ・キャベツが104%など5品目(前月は6品目)。前年比安であった品目はサトイモが前年比78%、トマトが81%、ホウレンソウが84%、ネギ・バレイショが87%など9品目(前月は7品目)。となっている。

東京都中央卸売市場の4月の野菜の入荷は、129,544トン前年比99%(前月比110%)であった。旬別では上旬が前年比10%増、中旬は5%増、下旬は16%減となっている。主要品目で前年比増となった品目は、ニンジンが前年比114%、キャベツが112%、バレイショが111%など8品目(前月は11品目)。前年比減となった品目は、タマネギが前年比84%、キュウリが89%、ナス91%など7品目(前月は3品目)。平均単価はkg¥260前年比97%(前月比100%)で、旬別では上旬¥275(前年比101%)、中旬¥260(前年比98%)、下旬¥245(前年比93%)でギリ貧であった。なお、当社に關係の深い品目の入荷量と平均単価は次表の通りである。

東京都中央卸売市場の4月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	129,544	98.5	101.4	260	97.4	99.6
た ま ね ぎ	12,151	84.2	99.6	131	150.6	101.6
キ ャ ベ ツ	19,569	111.9	112.3	118	102.9	95.2
だ い こ ん	11,375	105.3	93.4	94	90.7	100.0
ば れ い し ょ	8,751	111.1	116.8	223	93.9	99.1
に ん じ ん	8,350	114.2	112.8	168	103.5	93.9
ト マ ト	8,169	104.1	121.0	336	83.3	90.3
レ タ ス	7,381	92.9	95.4	192	90.1	104.4
き ゆ う り	6,913	89.4	105.5	279	106.0	98.6
は く さ い	6,152	102.1	85.0	141	143.0	108.5
ね ぎ	3,691	99.3	91.7	329	84.9	95.6
か ぼ ち ゃ	2,039	66.2	87.4	240	189.7	110.6
な が い も	724	80.7	94.3	517	135.3	107.5
れ ん こ ん	352	84.4	59.8	856	104.9	121.4
に ん に く	268	83.1	88.2	1,169	108.8	107.3

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の4月の玉葱の入荷は、12,544トン前年比99%（前月比100%）で北海物の切り上がりが予想より早く、佐賀物は生育遅れで出荷が後ズレしたことで品薄傾向となった。主力の北海物の入荷は6,878トン前年比88%、占有率は57%で前年比3ポイントアップ。佐賀物の入荷は3,826トン前年比72%、占有率は32%で前年比5ポイントダウン。長崎物は474トン

の入荷で前年比103%、占有率は4%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg¥131前年比151%(前月比102%)で、堅調に推移した。産地別の月平均価格は、北海物がkg¥123で前年比158%、佐賀物はkg¥141前年比147%、長崎物はkg¥162で前年比187%であった。

5月に入り、生育が遅れていた佐賀物の出荷が本格化したことや、終盤の北海物も前年を大幅に上回る入荷が続き、潤沢な出回りとなった。上旬の入荷は4,882トンで前年比131%、平均単価はkg¥103で前年比33%高。中旬の入荷は4,866トン前年比118%、平均単価はkg¥103前年比46%高。入荷増の価格高で、前月に続き堅調な市況展開となった。1日～20日までの集計では、産地別入荷量は、佐賀が6,054トン前年比140%。北海が1,816トン前年比133%、兵庫が413トン前年比60%、千葉が411トン前年比70%となっている。現在も入荷は順調だが、相場は産地主導の動きとなっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の4月の玉葱の入荷量は、6,154トン前年比97%(前月比90%)で減少傾向であった。4月も北海物主力の販売で、北海物の入荷は4,458トン前年比106%、占有率74%で前年比8ポイントアップ。愛知物は1,498トンの入荷で前年比78%、占有率は24%で前年比6ポイントダウン。静岡物は61トンの入荷で前年比95%、占有率は2%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg¥102前年比136%(前月比102%)で堅調に推移した。産地別では、北海物はkg¥90で前年比130%。愛知物はkg¥131で前年比158%。静岡物はkg¥123で前年比158%となっている。

5月に入り、地場産地の愛知物の入荷が最盛期となったが、球流れは大粒で2L級が大半を占め、2Lの動きは鈍かった。反面、L・Mは引き合いが強く、荷動きは順調であった。兵庫物の入荷は、量的に少なかったものの、割高で買手に敬遠された。月後半からは、愛知物も品種が変わり、やや小粒化したことで、前捌きが好転し、品薄傾向で堅調な動きとなった。昨今では、愛知物の入

荷は安定し、地産地消ムードに支えられ、好調な市況展開となっている。兵庫物は依然割高で厳しい販売環境にあるが、6月は愛知物が終盤となり、兵庫物に対する依存度が高くなるので、産地希望値の販売に努めている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の4月の玉葱の販売量は、3,780トン前年比83%(前月比88%)で、北海物の入荷減と、府県産の早生物の出荷が後ズレしたことで前年を大きく下回った。主力の北海物の入荷は、1,894トン前年比81%、占有率は50%で前年比1ポイントダウン。佐賀物の入荷は872トン前年比87%、占有率は23%で前年比1ポイントアップ。長崎物の入荷は642トン前年比77%、占有率は17%で前年比1ポイントダウン。兵庫物の入荷は311トン前年比81%、占有率は8%で前年と同じ。平均価格はkg¥126前年比154%(前月比109%)で、堅調に推移した。産地別では、北海物はkg¥108で前年比150%、佐賀物はkg¥142で前年比157%、長崎物はkg¥149前年比155%。兵庫物はkg¥141で前年比156%となっている。

5月に入り、主力は佐賀、兵庫の府県産に移行した。入荷量は総じて前年並みか前年を下回った。天気の関係で不安定化し、日毎のバラツキが大きかった。北海物の切り上がりが予想より早く、急減したことが入荷減に影響した。相場は堅調を維持し平均単価は、前年を20%程度上回っている。1日~20日の集計値では、入荷量は2,715トン前年比99%、平均価格はkg¥92前年比118%となっている。産地別の入荷は、佐賀が前年比137%、兵庫が96%、北海が49%で北海物の減少が目立った。昨今、相場は保合を維持しているものの、荷動きは鈍化傾向にあり、産地・銘柄別に価格差が生じ、買参人の好みの産地・銘柄もまちまちとなっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の4月の玉葱の販売量は、3,643トン前年比110%（前月比64%）で、前年比増、前月比減であった。佐賀、長崎の早生物は前年比増となったものの、北海物の伸び率が低下した。主力の北海物の販売量は1,816トン前年比104%、占有率は50%で前年比3ポイントダウン、佐賀物は997トンで前年比104%、占有率は27%で前年比2ポイントダウン。長崎物は482トンの販売で前年比132%、占有率は13%で2ポイントアップ。平均単価はkg¥113前年比135%（前月比113%）で堅調に推移した。産地別では、北海物はkg¥102で前年比131%。佐賀物はkg¥125で前年比149%。長崎物はkg¥148で前年比142%であった。

5月に入り、佐賀物主力の販売となったが、市場サイドは先安ムードとなったものの、産地の希望値は高く、販売環境は厳しい状態に直面した。他方、相場は値頃水準となったことから、市場内外の引き合いが強く、入荷増となったものの完売が続いた。高値を要請された銘柄を避けながら勉売した。長崎の早生物は終盤期を迎えたが、当初から品質良好だった銘柄が、量販店からの指名買いで有利販売が続いた。月後半には福岡物の入荷が始まったが、少量で品質が見劣りし、販売に苦労した。昨今では、佐賀物の入荷量が安定し、主力産地として有利販売に努めているが、玉葱全体の動きは鈍化傾向となっている。

5月25日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷95トン、保合

北海道 20kgDB2L¥2,200～1,800、L大¥2,500～2,350、L¥2,400～2,200、
M¥1,170～

佐 賀 10kgDB2L¥900 ～ 850、L¥1,170～1,100、 M¥1,150～1,100。

佐 賀 20kgDB2L¥1,900～1,700、L¥2,300～2,100、 M¥2,200～2,100。

【太田市場】 入荷374トン、保合

佐 賀 20kgDB2L¥1,700～1,600、 L¥2,500～2,200、 M¥2,200～2,000。

栃 木 20kgDB2L¥1,600～1,500、 L¥2,100～2,000、 M¥1,900～1,800。

愛 知 20kgNT2L¥1,800～1,700、

兵 庫 20kgDB2L¥2,000～1,800、 L¥2,500～2,300、 M¥2,300～2,100。

千 葉 10kgDB2L¥800～700、 L¥900～800、

【名古屋北部】 入荷202トン、保合

北海道 20kgDB2L¥1,600～ L大¥2,000～ L¥2,000～

愛 知 20kgNT2L¥1,600～1,500、 L¥2,000～1,900、 M¥1,800～1,700。

兵 庫 20kgDB2L¥2,000～1,800、 L¥2,500～2,300、 M¥2,200～2,100。

【大阪本場】 入荷216トン、保合

兵 庫 10kgDB2L¥1,200～1,000、 L¥1,500～1,200、 M¥1,300～1,100。

兵 庫 20kgDB2L¥2,200～2,000、 L¥2,600～2,500、 M¥2,300～2,200。

佐 賀 10kgDB2L¥1,100～ 900、 L¥1,200～1,000、 M¥1,100～1,000。

佐 賀 20kgDB2L¥2,000～1,900、 L¥2,500～2,200、 M¥2,500～2,200。

大 阪10kgDB2L¥900 ～ 800、 L¥1,000～ 900、 M¥900 ～ 800。

大 阪 20kgDB2L¥1,800～1,700、 L¥2,000～1,900、 M¥1,800～1,700。

【福岡市場】 入荷147トン、保合

長 崎 10kgDB2L¥1,000～ 900、 L¥1,100～1,000、 M¥1,000～ 900。

佐 賀 10kgDB2L¥1,000～ 800、 L¥1,100～1,000、 M¥1,000～ 900。

福 岡 10kgDB2L¥1,000～ 800、 L¥1,000～ 800、 M¥800 ～ 700。

供給(産地)の動き

府県産地の早生は、いずれの産地も定植時期のバラツキや、春先の低温の影響などで、生育に圃場格差があり、露地栽培の収穫・出荷は後ズレ傾向となった。極早生系の主力を占めるレクスター種は、球肥大が順調で大粒化し、

豊作型であったが、それ以外の早生種の作柄にはバラツキが大きかった。続く中晩生の生育も圃場格差が大きい。現在、雨待ちの圃場が多く、収穫迄に適雨に恵まれれば、平年作は確保出来そうである。5月は主力産地を始め多くの産地が本格的な出荷期を迎え、潤沢な出回り量となったが、需要が旺盛で市況は、予想外の高値を維持した。いずれの産地も前年と同様に6・7月の高値を期待して、強気ムードが支配し、出荷は後ズレ傾向にある。4～6月向けの販売用に、前年並みの在庫があると言われていた北海物の切り上がりだが、意外に早かったことが、需給の好転に作用した。現在、北海道産地では、通年出荷を目指した、実証実験用の貯蔵玉葱の出荷が始まっているが、市場では意外に引き合いが鈍く、総じて低調な販売となっている。

府県産地

佐賀では、豊作型だった早生系(レクスター、七宝)の出荷が終わり、月後半から中生系(アンサー、ターボ、アドバンス)の出荷に移行している。球流れはL中心で早生系に比べ小粒化している。中晩生の作付は種子配布の試算で前年比90%と報告されていたが、圃場を見渡す限り80%前後との説が大勢を占めている。懸念された病害は、関係者挙げての予防の徹底で、部分的な罹病は散見されるものの、昨年のようなベト病の大発生は回避されている。作柄は、定植の早い遅いで格差が大きく、生育は早植えは豊作型、遅植えは不作型となっているが、総じては平年作を見込んでいる。中心産地の白石地区では春の低温と、雨不足で多くの圃場で地割れが発生し、根が切られて生育が停滞した。4月下旬の降雨量は13mm(前年123mm)、日照時間は87時間(前年37時間)、現在も雨待ちで適雨に恵まれれば、貯蔵性品種のターザン、もみじの作柄が好転する。生産者の夏高期待のムードが高まり、除湿乾燥処理の申し込みが多いほか、既に短期貯蔵(囲い)や小屋吊りを始めている生産者が多い。

兵庫の淡路島では、早生系は豊作型であったが、中晩生は平年作と予想されている。淡路においても、定植の早晚が生育に大きく影響している。中生の

アンサー、オメガに抽苔が多発生している圃場が目立つ。3月の低温、干ばつで肥料の吸収力が低下し、肥料切れが原因とされている。晩生のもみじ輝きの作付が減少し、中晩生のターザンが増反されている。貯蔵性の高いターザンの占有率は総面積の54%を占め、6月以降は市場の主導権を握る産地となる。生産者は降雨を待ち侘びている。昨24～25日の降雨は、中晩生に好適であったが、少量で収穫前にもうひと雨を切望している。中晩生の生産量は前年作を上回ると見ているが、生産者の夏高期待ムードが高まっている。

北海道産地

北海道の生産者の栽培意欲は旺盛で、育苗、定植は順調に終了し、定植後も好適な天候に恵まれ、活着も良好である。定植作業は総じて前進化した。定植作業は4月18日(平年比1週間早い)から始まった。4月後半には断続的な降雨があり、一時作業の停滞が見受けられたが、5月に入ってから、好天に恵まれ、平年より1週間程度早く終了した。早期定植の圃場で若干の風害が発生したが、大事に至らず回復した。5月の気温は高めの日が多く初期生育は順調である。有利な早出し出荷を目指して、パオパオ掛けをして、生育の促進を図っている生産者が増えている。

外国産地

4月の輸入は、速報値で、27、120トン前年比149%で予想を上回った。前年と異なり、日本のマーケットは堅調だったか、各国とも自国のマーケットが不振であったことが影響した。主な国別の輸入量では、中国が19、579トン前年比134%。ニュージーランドが6、936トン前年比223%。オーストラリアが448トン前年比82%。となっている。

中国、現在、入荷している主産地は江蘇省、山東省である。江蘇省の作柄は平年作を下回るが、山東省は豊作型であると言う。いずれも剥き玉主力で、府県産に比べ廉価であり、日本での需要は定着している。現在、現地相場は横這いから弱含みの動きにあり、日本向け価格は、ムキ玉20kg・C&F・\$6.40、

皮付き \$5. 20 の水準にある。

ニュージーランド、今シーズンの輸出の進捗率は80%に達し、終盤を迎えている。ホークスベイ地区の収穫が遅れたことで、現地相場は軟化傾向にある。日本向けは、5月末で19, 300トンを超えると言われている。現在、日本向け価格は、20kg・C&F・¥1,200～1, 150の水準にあるが、一部¥1, 100もあると聞いている。

オーストラリア、成約の主力は前年同様大型量販店向けで、主力は5～7月入荷で、数量は5, 200トン前後の模様。価格はC&F・kg ¥75前後とのこと。

6月の市況見通し

5月市況は、日を追って軟化すると予想したが、出回り量は予想通り増加傾向となったものの、堅調な需要に支えられ、後半には強保合で推移した。現在の堅調な市況を反映して、いずれの産地の生産者も夏高相場への期待が高まっている。昨年のような異常高値はないと見ているが、産地主導の販売となる可能性が強く、現状維持か多少の値下りで 20kgL ¥2, 300～2,200 を予想。(了)